



— <宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃テーマ> —

南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう

岐阜高山教務所だより

高ひだ御坊真宗公開講座のご案内（12/18）

飛騨御坊真宗教化センターでは、多くの方々に仏法に触れていただく機会となるよう、各団体の御協力で、真宗公開講座を開催しています。

つきましては下記の通り開催いたしますので、有縁の方々とお誘いあわせのうえ、ご聴聞ください。

日時 2024年12月18日(水) 午後2時から
講師 乾 文雄氏(大谷中学・高等学校校長)
講題 「聞(もん)・問(もん)・開(かい)」という歩み
会場 高山別院御坊会館
参加費 500円
主催 高山地区真宗同朋会

岐 仏教公開講座のご案内（12/20）

「生きるってどういうこと」を年間テーマとし、「眼(まなこ)をひらく 心(こころ)をひらく」をサブテーマとして、第232回を開催いたします。

一人でも多くの有縁の同朋と共に、仏法聴聞の場に出遇っていただきますようご案内申し上げます。

日時 12月20日(金)午後2時から
講師 徳永 進 氏
(野の花診療所医院長)
講題 「いのちの不思議」
会場 岐阜高山教務所
聴講料 年間聴講券(5,000円)
当日券(500円)

【先生からのメッセージ】

ありふれたものは不思議の源。お米もみそ汁も魚もトマトもナス、塩もミソも不思議の源。風だって空だって、月や星だって。太陽も。子どももおばあさんも、女も男も不思議の不思議。立つこと歩くこと、走ること、寝ることも不思議。戦争はありふれた全てを不可能にする。そんなことをしてかしてしまうありふれたいのちってなんだろう。

敬 弔

ご生前のご遺徳を偲び、
謹んで哀悼の意を表します。

元参議会議員

馬場 一吾様 11月9日 命終

住職就任

第1組 雲端寺

藤井 学 様 10月28日就任

今月のテレホン法話

テーマ

いのちの出会い「真実の声を」

TEL(058)265-0033

12月1日～末日

佐々木 良志氏 (第2組正法寺)

12月の主な行事

2日(月)[13時半]サラナン^岐

3日(火)[14時]岐阜地区同推協各組会長会^岐

[14時]高山区解放推進協議会輪読会^高

8日～11日 岐阜別院報恩講

13日(金)[15時半]両地区育成部会

[19時]教化学研修室^岐

14日(土)[17時]帰敬式推進室実行委員会^高

15日～18日 竹鼻別院報恩講

18日(水)[14時]真宗公開講座^高

19日(木)[16時]教化研究所^高

20日(金)[14時]仏教公開講座^岐

23日(月)[14時]育成部会^岐

24日(火)[15時]開頭部会^岐

26日(木)[14時]緊急事態対策委員会・参事会常

任委員会合同会

28日(土)～1月6日(月)事務休止

書籍の紹介



【書籍名】 煩悩百八面相

【著者】 梶 哲也(著) 今村 風子(絵)

【定価】 ¥770 (税込)

シリーズ『真宗文庫』120頁 11/21 発売
言葉としてはよく知られているが、具体的な中身はあまり確認されない仏教語「煩悩」。

仏教学の研究者である著者が、仏教の「煩悩とは何か」を經典・注釈書にもとづき解説。

苦悩の原因をより鮮明に知るためのガイド。

【著者】梶 哲也(かじ・てつや)

1982年生まれ。大谷大学大学院博士後期課程(仏教学)修了。博士(文学)。真宗大谷派教学研究所助手。専門は初期インド仏教・説一切有部。主な論文に「説一切有部における煩悩論の構造と起点」(博士論文、大谷大学、2019年)、「説一切有部における欲(chanda)」(『対法雑誌』第1号、2020年)など。

【絵】今村 風子(いまむら・ふうこ)

1995年生まれ。画家、漫画家。2019年に「寒山さんと拾得さん」(『アックス』第128号、青林工藝舎)でデビュー。同作で第21回アックスマンガ新人賞の「南伸坊個人賞」を受賞。近作「母の道」(『アックス』第158号)では「二河白道」の喩えを漫画化。

去る10月29日～30日、岐阜地区研修部会を中心とし高山地区の方にも声をかけ、邑久光明園及び長島愛生園をたずねました。参加された上清水氏の所感を掲載いたします。

ハンセン病療養所を訪ねて “^な名告れない人たち”

高山地区 上清水 信男

20年前、療養所に入所されている神谷さんに、高山市の小学校でハンセン病の講演を依頼したところ、快く引き受けていただきました。小学生への講演は初めてのことでしたが、よくぞ岡山から来ていただきました。その夜は旧知のごとく懇親を深めたこと懐かしく思い出します。それ以来のお付き合いです。神谷さんは愛知県の出身です。20才の頃発症し、療養所に送られました。それから75年療養所で暮らしています。強制収容された方、希望して入所した方、様々な過去を背負いながら沢山の方が療養所で暮らしてきました。そして今も暮らしています。悲しいかな、これ迄に療養所で亡くなった方々は遺骨になっても本名を名告れません。なぜなのでしょう。

神谷さん 95才。国立療養所長島愛生園で元気に暮らしています。

お知らせ 「本山永代経」「本山申経」のお扱いの改定について

2025年1月より「本山永代経」「本山申経」のお扱いの改定を行います。改定前(2024年12月末日まで)に発行された「本山永代経御紐解證」・「本山申経参詣證」は、志納当時のお取り扱いにて受付し、本山申経の「特種」「一種」は、別座にてご案内をいたし、「五種」については「御影堂読経」としてお扱いいたします。

なお、2024年度中(2025年6月末日まで)は「御影堂読経」は「本山申経参詣證」を代用して発行されます。

【現行】～2024年12月31日

【改正】2025年1月1日～

	種別	読経志	読経	お齋		種別	読経志	読経扱	お齋
本山永代経	特等	300,000円以上	別座	5人	⇒	別座特等	1,000,000円以上	完全別座	参拝人数
	一等	200,000円以上	別座	3人		別座一等	500,000円以上	別座	10人
	二等	100,000円以上				別座二等	300,000円以上	別座	5人
	三等	50,000円以上				別座三等	200,000円以上	別座	3人
						四等	100,000円以上		
申経	特種	300,000円以上	別座	5人	⇒	御影堂読経	30,000円以上		
	一種	200,000円以上	別座	3人					
	二種	100,000円以上							
	三種	50,000円以上							
	四種	30,000円以上							
	五種	20,000円以上							
	六種	10,000円以上			仏間読経	10,000円以上			

【本山永代経】御影堂にて御紐解(初めての読経)を行い、「法名記」に登載します。以降、春・秋彼岸会中にお勤めする「永代経総経」にご案内いたします。

【御影堂読経】御影堂にて一座読経いたします。受付時に法名紙をお渡しし、代表者に法名を清書いただきます。法名紙は読経の際(焼香時)に広蓋に納めていただきます。

【仏間読経】参拝接待所仏間にて一座読経いたします。参拝接待所受付にて当日お申込みください。
※都合により読経場所を変更する場合があります。

≪完全別座読経≫読経志100万円以上お納めいただきますと、親族のみでの別座にて読経のうえ、希望数のお齋の接待があります(要事前申込)。

(岐阜地区教化センター) 聖典学習会について

このたび、標記学習会を下記の通り開催いたします。

どうぞお誘い合わせのうえ、ご参加くださいますようお願い申し上げます。

〔講師〕 東館 紹見 氏(大谷大学教授)

〔テーマ〕 『御消息集』・『恵信尼消息』について学ぶ

〔期日〕 【第1回】1月27日(月) 【第2回】2月21日(金)

〔時間〕 午後2時～4時30分

〔会場〕 岐阜高山教務所・Zoom 配信

〔その他〕 詳細なお知らせは追ってご連絡をさせていただきます。

教務所・支所事務休暇について

岐阜高山教務所及び高山教務支所は下記の期間事務休暇をいただきますので、ご了承くださいませよう
よろしくお願いいたします。

期 間 2024年12月28日(土)～2025年1月6日(月)

対 象 岐阜高山教務所及び高山教務支所

事 由 年末年始事務休暇のため

※事務始めは1月7日(火)になります。

コラム「所員のつづやき」

報恩講シーズン。最近はめっきり教務所に来所される方が少なくなり、ちょっと寂しい教務所内。
自坊の福岡でも11月29日と30日に報恩講が厳修されます。

幼少期は毎年、報恩講が楽しみで待ちきれなかったのを覚えています。

報恩講当日、朝7時頃になるとお斎場からご門徒さん方の声が聞こえてきて、ベッドから飛び起きます。

まずは一通りご門徒さんに「おはよう！」と挨拶して回り、できあがっていくおかずからつまみ食い。ある時は調味料のお醤油一升瓶を割り、やる事がなくなると「何かすることない?!」とウロウロウロウ。そんなお邪魔娘がいるにも関わらず、高速で材料の下処理を済ませ、ウロウロする私に野菜の切り方を教え、「味見が一番おいしいんや」とできたてのおかずを食べさせてくれる“お斎のおばちゃん”たち。

お斎場には大きな釜があり、その釜で絶妙な味付けで炊かれたお揚げやお芋が大好きで、釜の前で“味見役”は待機。

そうこうしていると隣で口論が始まります。耳の遠い“お斎のおばちゃん”同士が「貴様の声は聞こえちょーわ、黙っちゃよけ! (※喧嘩をしているわけではない)」。『(…うちのご門徒さんは今日も元気やな (笑))』

そんなお斎場もコロナ禍以降、おこわを作ってお配りするだけになったので、以前の賑やかしさはなくなりました。

自坊で食べるお斎が私の故郷の味であり、“食への執着”の原点。

なかなか痩せられない、11月は“食欲の秋・お斎の季節”。

岐阜高山教務所書記 曲

